

第五次塩尻市総合計画総括評価



第1期 2015-2017年



第2期 2018-2020年



第3期 2021-2023年

2024年9月 塩尻市

策定方針

行政の経営資源を「どのような理由で」、「何に」投入し、成果を上げるために「いかに」取り組むかを明確にした“戦略性を持った”総合計画としました。

構 成

第五次塩尻市総合計画は次の3層構造です。

長期戦略・・・目指す都市像の実現に向けて、次の9年間で重点的に取り組むべき分野や、成果を上げるためのマネジメント方針を定めた市政の基調となるもの

中期戦略・・・長期戦略に基づき3年を1期とした事業の執行計画

実施計画・・・中期戦略の具体的な取り組み、実施時期、内容等を示したもの

特 徴

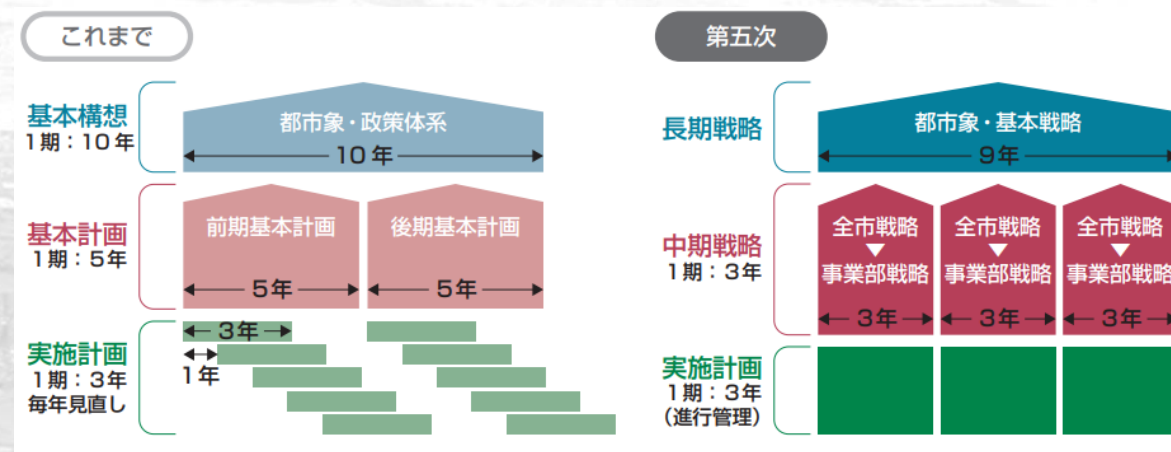
① 重点を明示した戦略計画

第四次までの計画は、すべての政策・施策分野を均一的に記述する「全体をとらえた計画」でしたが、市政の重点が分かるよう、記述にメリハリをつけました。

② 計画期間の短縮

社会の変化のスピードに対応できるよう、「1期3年」「全体で9年」の計画期間としました。

これら社会変化に即応していく特徴は、次期(第六次)総合計画においても継承されています。



「確かな暮らし 未来につなぐ田園都市」を目指す都市像に掲げて、3つの基本戦略を基軸として推進した第五次塩尻市総合計画は、最上位成果指標(総人口)65,000人以上を目指し、66,185人という結果となりました。

基本戦略A「子育て世代に選ばれる地域の創造」では、市民の「子育てしやすいまちである」と思う割合の上昇や「20-40歳代の転入超過」など選ばれる地域として成果が見られました。一方、合計特殊出生率の低下などの課題も残り、多様な家族の在り方を前提に出生率の改善に対応していく必要があります。

基本戦略B「住みよい持続可能な地域の創造」では、本市の強みである『生活環境の利便性』、『知的資本の集積』、『活発なコミュニティ活動』を維持・発展させていくことに加え、不安要因である災害、食糧確保、エネルギー需給、社会基盤の老朽化などへの対応した結果、「市政に対する総合満足度」が増加しており、今後も生活環境を維持・向上させる基盤となっています。

基本戦略C「シニアが生き生きと活躍できる地域の創造」では、市民が豊かな高齢期を迎えることのできる環境づくりを目指すとともに、生活習慣病や介護の予防を推進した結果、男女の平均寿命、健康寿命が延伸しました。

基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクトでは、地域ブランド・プロモーションにおいて「塩尻市を他地域に誇れると感じる市民の割合」が増加するなど多くの目標を達成しています。

塩尻市が「30年後も選ばれる地域」であり続けるため、策定・推進した「第五次塩尻市総合計画」は十分な成果をあげています。

最上位成果指標(総人口)の評価

目指す都市像を「確かな暮らし 未来につなぐ田園都市」、最上位成果指標として総人口を掲げ、2023年の人口65,000人以上を目標としました。

政策などの効果により目標値を達成

総合計画の推進などによる政策誘導や社会変化などの外的要因も含めた結果、2023年総人口は**66,185人**となり、**目標値を達成しました。**

(目標人口 +1,185人)

長野県毎月人口異動調査の結果から、計画期間全体として見ると、出生者数、社会増減数が国推計値よりも多い傾向にあったことが分かります。(図1～3)

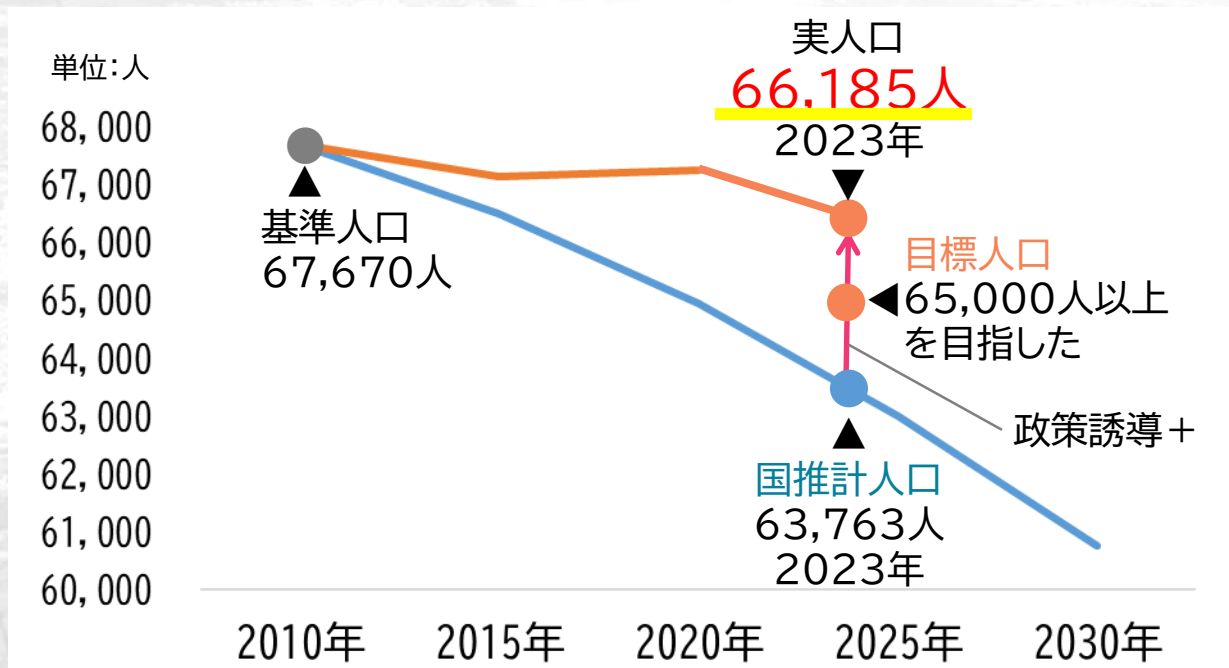


図1

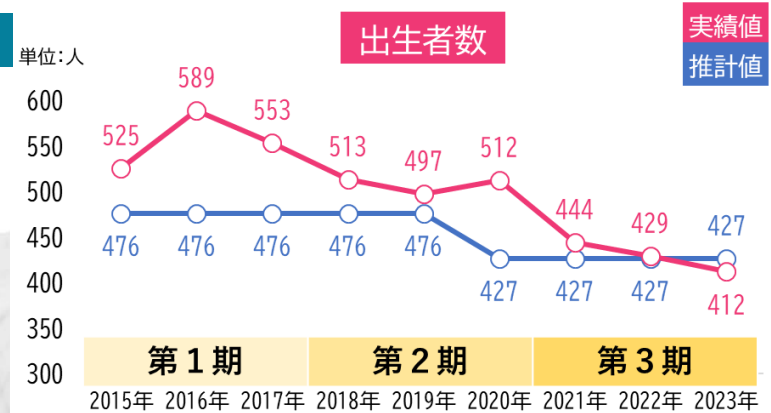


図2

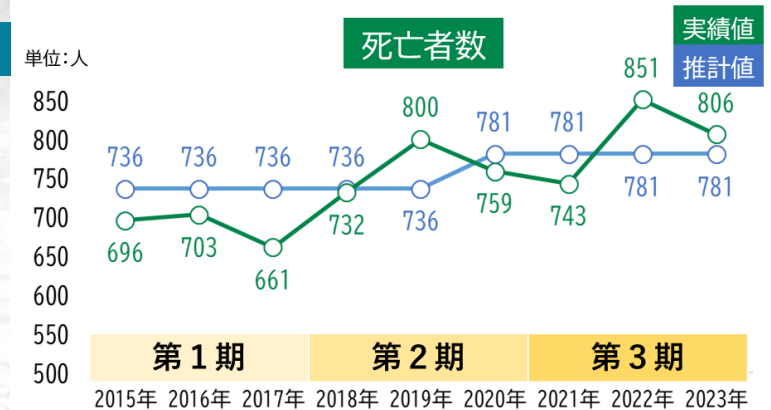
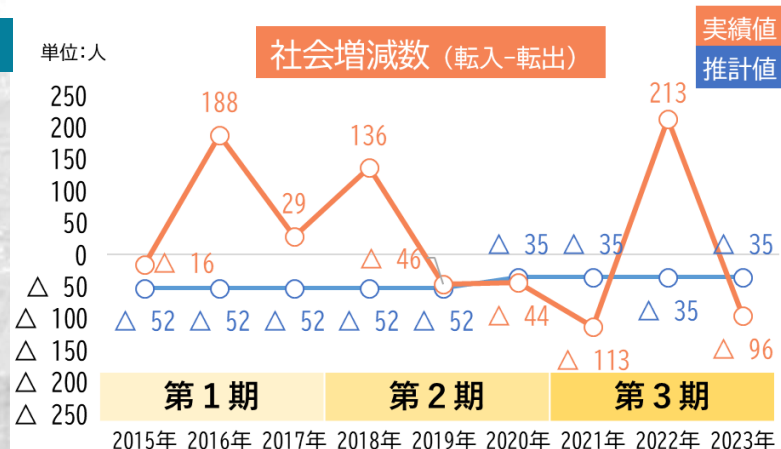


図3



※図1～3は長野県毎月人口異動調査の数値を用いています。



目指した姿

2023年

安心して子どもを産み育てる環境の整備、
確かな成長を支える教育環境の整備など、
子育て、教育環境の充実を図り、**20-40歳**
代の子育て世代を中心に選ばれる地域を
目指しました。

プロジェクト

- 1 子どもを産み育てる環境の整備
- 2 教育再生による確かな成長の支援



取組の結果

「子育てしやすいまち」であると思う市民
の割合が**増加**しました。

将来の夢や目標を持つ中学生の割合は、
減少傾向にあります。

合計特殊出生率は、**減少傾向**にあります。

20-40歳代が**転出超過**から**転入超過**に
好転しました。

計画策定時の現状・課題

2015年

本市は、県内で最も生産年齢人口の割合が高
い市でした。

しかし、団塊世代の高齢化や人口の社会減少
などから、現役世代の比率低下が避けられず、
この状況が続くと将来的に**地域の活力が低下し、**
地域全体の持続可能性の確保が困難になるこ
とが懸念されていました。

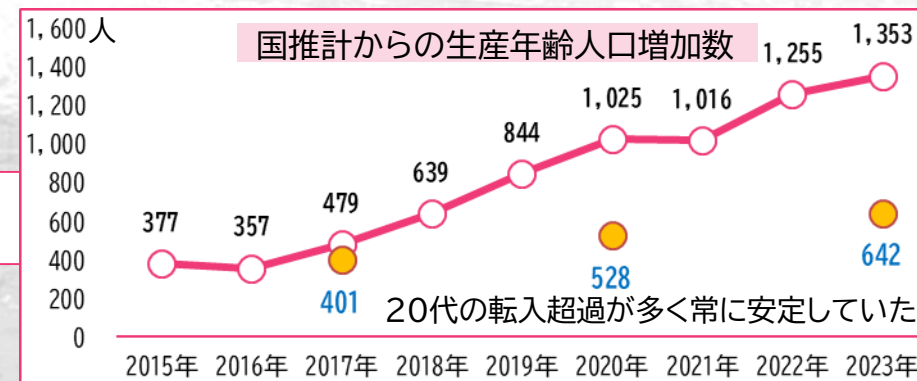
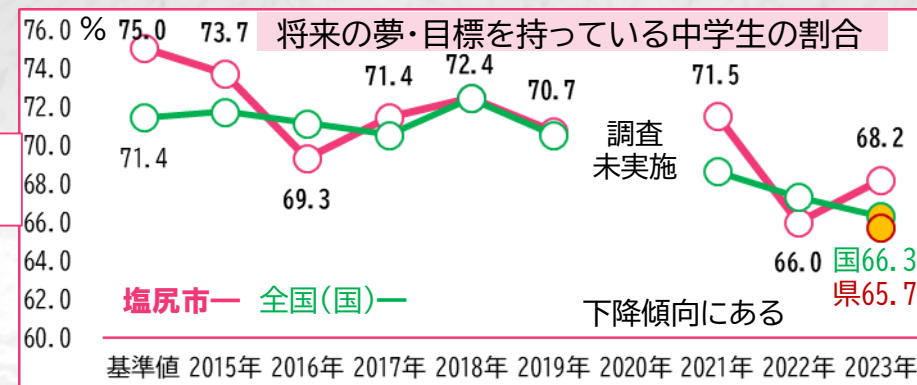
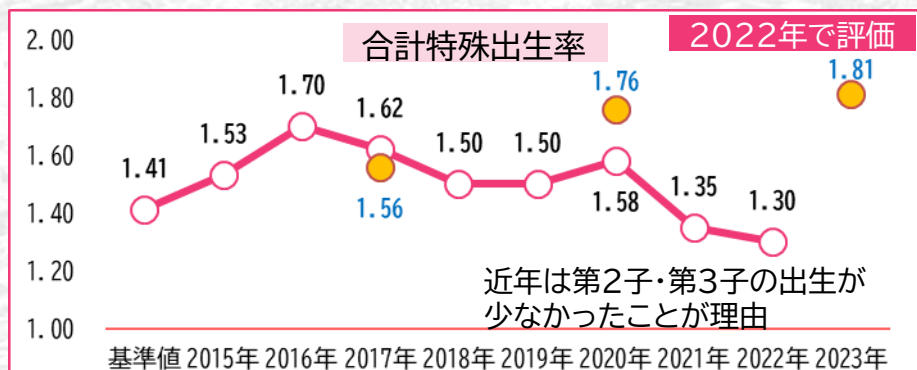
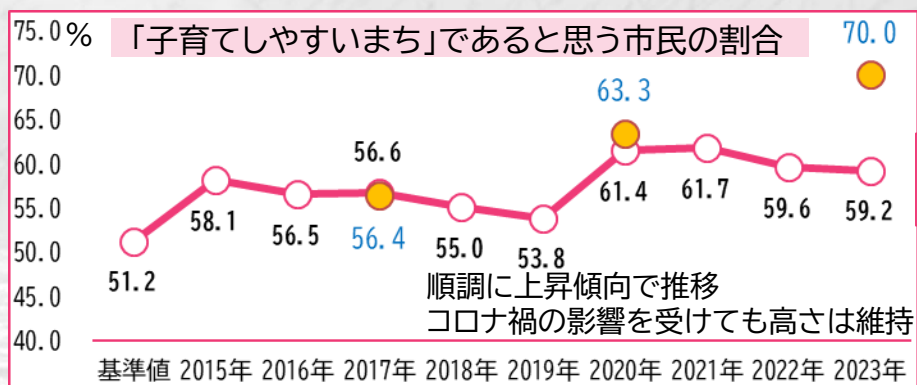
次期総合計画への課題

今後も市民が「子育てしやすいと思うこ
とができ、子どもたちがいきいきと暮らせ
る**地域**」を創造します。

価値観の多様化やコロナ禍の経験から、
個々の特性や事情にあった**選択肢**が求め
られており、**多様な家族の在り方を前提に、**
出生率の低下に対応していく必要がありま
す。

基本戦略Aの総合評価は「A」となりました。4つの基本戦略成果指標のうち、2つの指標で目標を達成しています。

- 「子育てしやすいまち」という市民の割合は、基準値(2014年)51.2%を9年間で約20ポイント増加を目指すという高い目標にチャレンジしましたが、2023年実績値は59.2%となり目標に届きませんでした。
- 将来の夢・目標を持っている中学生の割合は、基準値から全国・塩尻市は減少傾向にありますが、一定の水準で国・県平均よりも高い傾向を保っており、2023年の目標を達成しています。
- 合計特殊出生率は、一時上昇していましたが、2016年の1.70をピークに減少傾向が続いています。
- 国推計からの生産年齢人口増加数は、2023年実績値が1,353人となり目標値を上回りました。「選ばれる地域としての成果」が出ています。



外的要因など

・好景気により共働き世帯が増加 ・求められる学力が変化 ・価値観や家族の在り方が多様化 ・コロナ禍による生活の不安や行動制約



計画策定時の現状・課題

2015年

本市の強みである「生活環境の利便性」、「知的資本の集積」、「活発なコミュニティー活動」を維持・発展させていくことに加え、不安要因である災害、食糧確保、エネルギー需給、社会基盤の老朽化などへの対応が求められていました。

目指した姿

2023年

本市の強みである「暮らしやすさ」を維持・発展させ、自立した持続可能な田園都市として、市民が暮らしの豊かさを実感でき、豊かさの源泉となる要素を磨き、市民の暮らしの満足度の維持、向上を目指しました。

プロジェクト

- 3 産業振興と就業環境の創出
- 4 地域資源を生かした交流の推進
- 5 域内循環システムの形成
- 6 危機管理の強化と社会基盤の最適活用



取組の結果

市政に対する総合満足度が増加しました。

57.5%(H26年) → 66.0%(R5年)

財政力指数に大きな変動はなく、安定した財政運営を実現することができました。

仕事や役割に対して「やりがい」「生きがい」を感じる市民の割合が減少しました。

82.0%(H26年) → 77.5%(R5年)

次期総合計画への課題

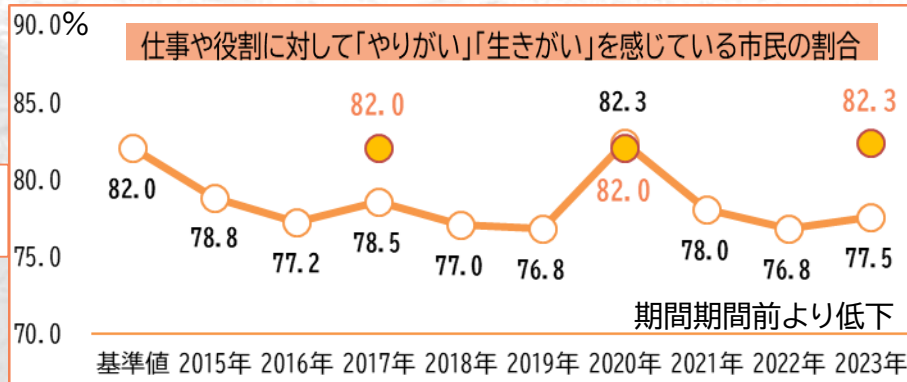
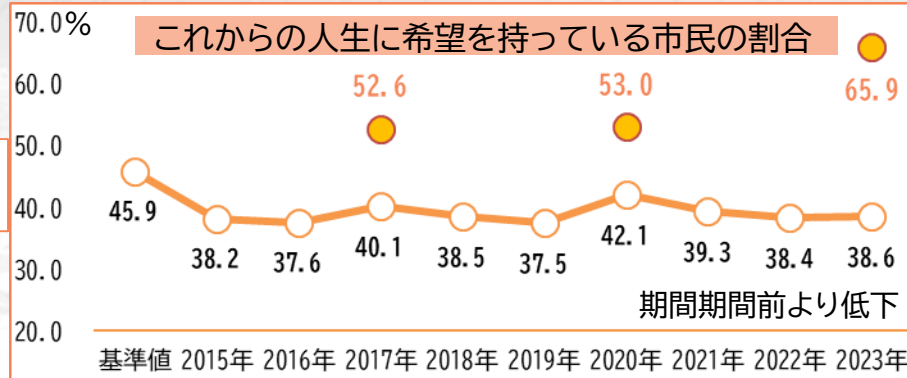
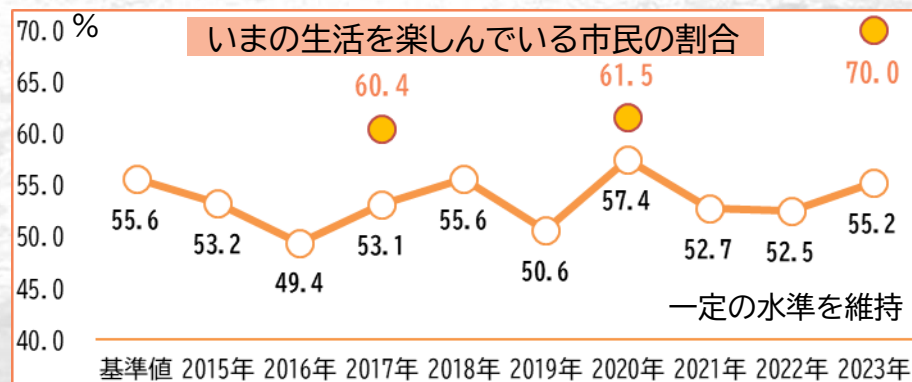
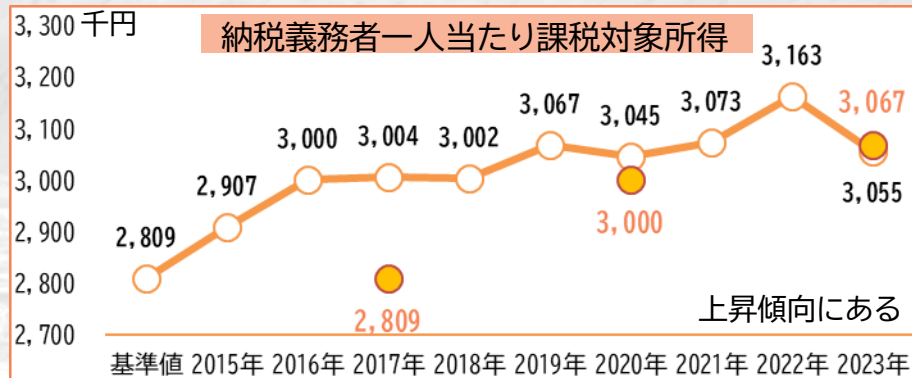
引き続き、本市の強みである「暮らしやすさ」を維持・発展させ、暮らしの満足度の向上を図ります。

生活の不安要因となる異常気象や地震などの災害に即応できる体制の構築に努めます。

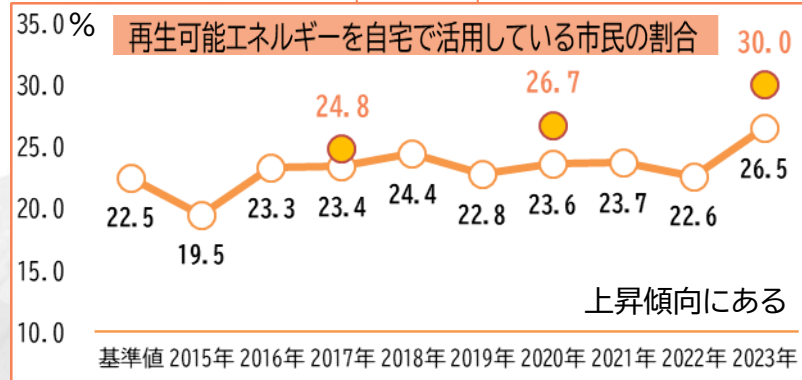
老朽化する社会基盤を適正に維持・更新し、生活環境の維持・向上を図ります。

基本戦略Bの総合評価は「B」となりました。9つの基本戦略成果指標のうち、1つの指標で目標を達成しました。

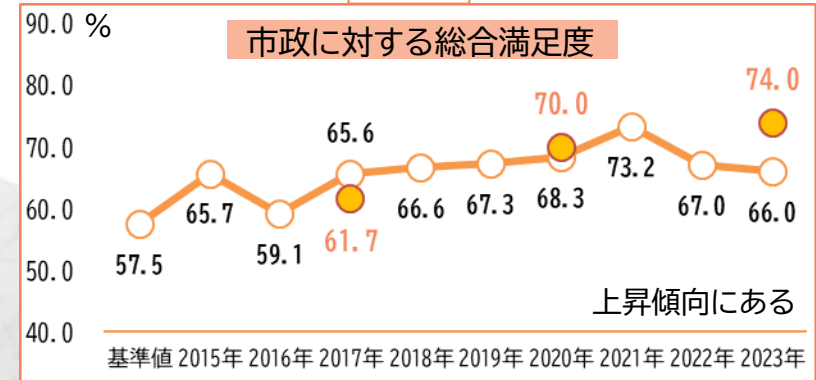
- 納税義務者一人当たり課税対象所得、再生可能エネルギーを自宅で活用している市民の割合、地域産食材が豊富で手に入りやすい環境があると感じる市民の割合、市政に対する総合満足度は、目標に届かなかったものの基準値を上回りました。
- 目標値と基準値のどちらも達成しなかった指標は3つありました。中でも、これからの人生に希望を持っている市民の割合、いまの生活を楽しんでいる市民の割合、仕事や役割に対して「やりがい」「生きがい」を感じている市民の割合については、第五次総合計画期間前よりも数値を落としており、課題を残す結果となりました。
- 財政力指数は目標値を達成し、安定した財政運営を堅持することができました。



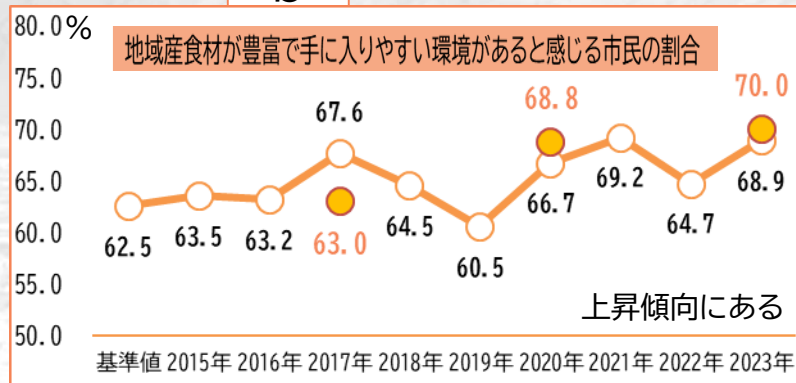
未達成
b



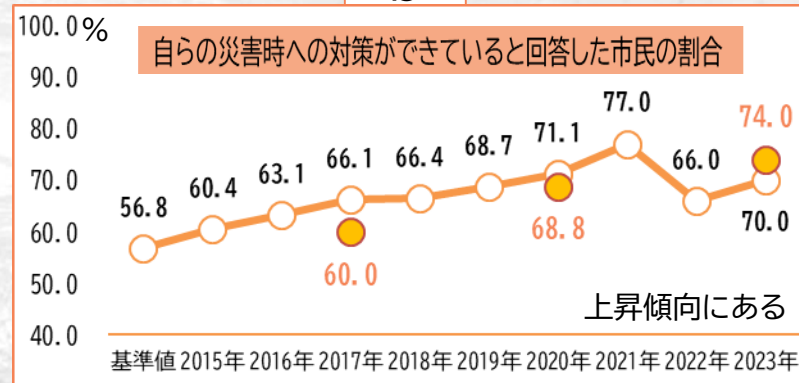
未達成
b



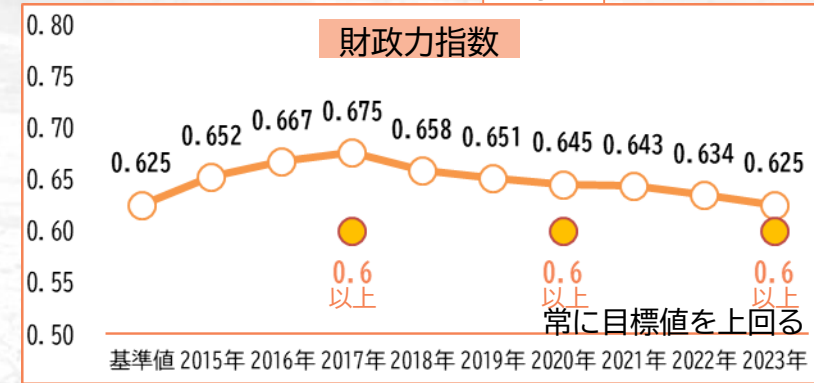
未達成
b



未達成
b



達成
a



外的要因など

- ・人口減少がクローズアップされ、地方創生、若者の大都市集中回避が国策化
- ・好景気と、その後のコロナ禍による経済的打撃
- ・コロナ禍を契機としたICT活用とDX(デジタル・トランスフォーメーション)の加速
- ・地球温暖化による気候変動の顕著化と世界的な目標の設定
- ・自然災害の頻発化や激甚化

目指した姿

2023年

高齢者が生きがいを持って、健康で社会的、経済的に自立し、地域社会に貢献することができる仕組みづくりやコミュニティの形成を図るとともに、生活習慣病の予防や介護予防を推進し、健康寿命の延伸を図りました。

住み慣れた地域で生活が継続できるような支援を行い、市民が豊かな高齢期を迎えることのできる環境づくりを目指しました。

プロジェクト

- 7 生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築
- 8 健康寿命の延伸と住み慣れた地域での生活継続



計画策定時の現状・課題

2015年

本市は、全国トップクラスの長寿を誇り、多くの高齢者が自立した生活を送っていました。団塊の世代が高齢者に移行し、これまで以上に元気な高齢者が健康を保ち、活躍できる社会環境を整備することを重視しました。

安心して老いることのできる地域を、多様な主体により包括的に構築していく必要がありました。

取組の結果

互いにささえあい、助け合う人間関係が地域に築かれていると感じる市民(高齢者)の割合が減少しました。

51.3%(H26年) → 42.6%(R5年)
健康寿命、平均寿命は、男女ともに延伸傾向にあります。

【健康寿命】 H26 → R5
男性 : 80.2歳 → 80.8歳
女性 : 83.8歳 → 85.7歳

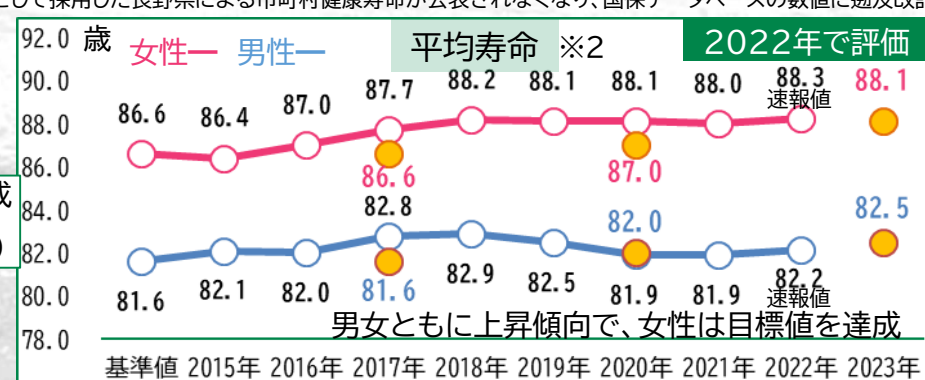
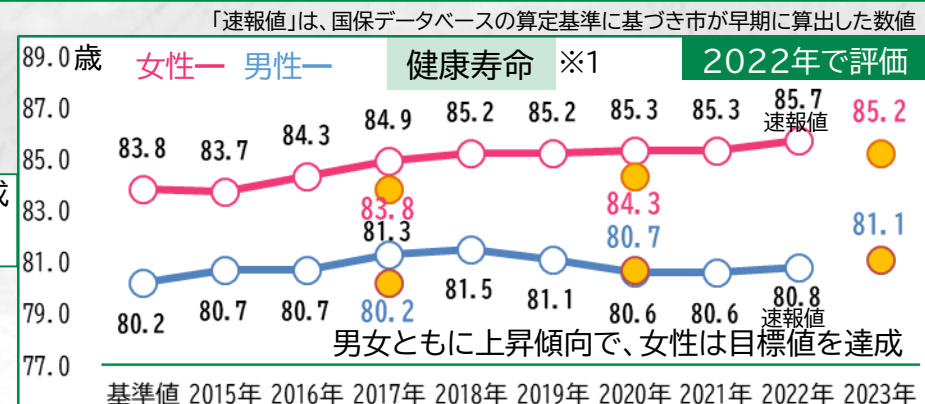
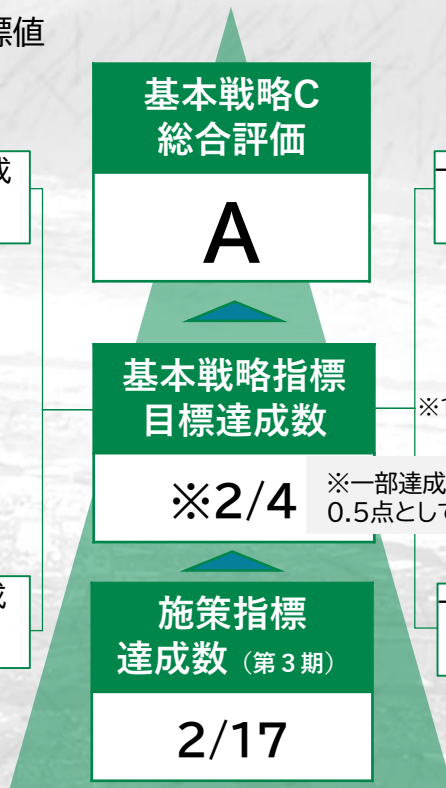
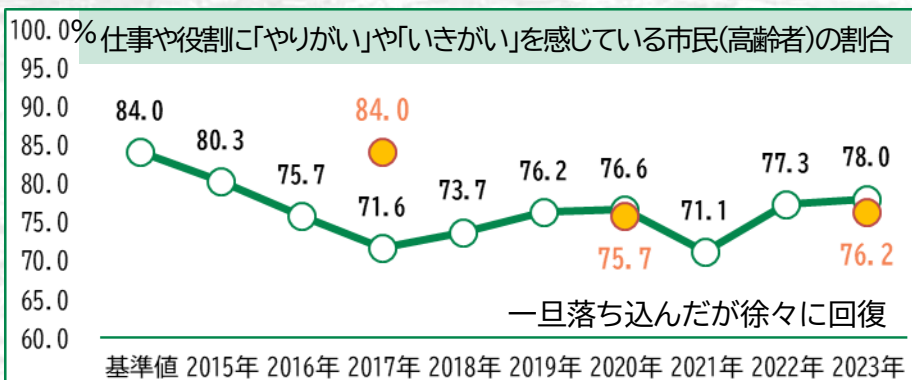
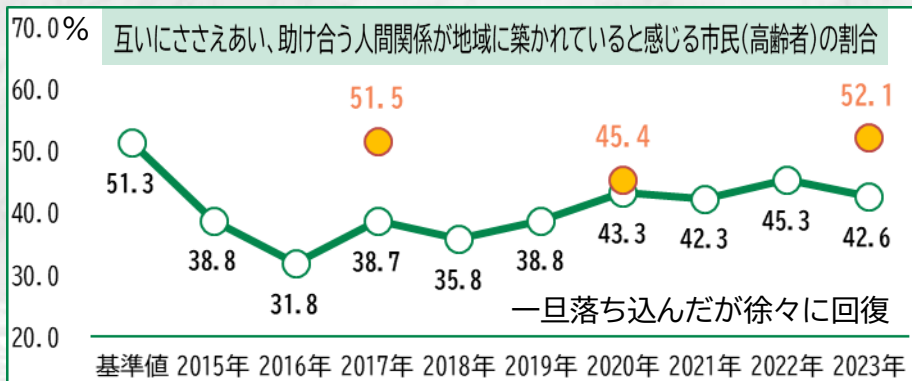
次期総合計画への課題

一人ひとりが健康や老いなど、それぞれの特性と向き合いながら、自らの健康を守り、周囲に対してできることを考えた活動によって、日常生活を自立して送ることができるまちづくりに努めます。

基本戦略C シニアが生き生きと活躍できる地域の創造

基本戦略Cの総合評価は、「A」となりました。4つの基本戦略成果指標のうち、一部達成を含めて3つの指標で目標値を達成しています。

- **健康寿命、平均寿命**については、どちらも女性目標を達成し、男性は未達成となりました。特に、女性の健康寿命は、2022年の都道府県別で長野県が1位となった85.1歳を上回る85.7歳(速報値)で、**全国の健康長寿を牽引**しています。
- 仕事や役割に対して「やりがい」「いきがい」を感じている市民(高齢者)の割合は、目標を達成しました。
- 互いにささえあい、助け合う人間関係が地域に築かれていると感じる市民(高齢者)の割合は、第五次総合計画期間前から8.7ポイント低下し、課題を残す結果となりました。



※1: 基準値として採用した長野県による市町村健康寿命が公表されなくなり、国保データベースの数値に遡及改訂した。

※2: 厚生労働省による市町村数値は5年に一度の公表であるため、経年で公表される国保データベースの数値に遡及改訂した。

外的要因など

- ・高齢化の進展による社会保障需要の増加
- ・人口減少や単身世帯増加による個別化の進展
- ・定年延長などによる地域コミュニティでの人材不足
- ・介護サービスを提供する施設・人材不足が深刻化

最上位成果指標(9年)、基本戦略指標(9年)・施策指標(3年)の評価全体像

長期戦略評価

2015-2023年

最上位成果指標(総人口)

66,185人
(目標:65,000人)

各総合評価の半数以上がS・Aと判定されていることから総合的な評価は高いと言えます。

基本戦略総合評価

S	A	B	C	合計
0	2	1	0	3

A以上の総合評価
2/3

基本戦略A 子育て世代に選ばれる地域の創造	
総合評価	達成数
A	2/4

基本戦略B 住みよい持続可能な地域の創造	
総合評価	達成数
B	1/9

基本戦略C シニアが生き生きと活躍できる地域の創造	
総合評価	達成数
A	2/4

第3期
中期戦略評価
2021-2023年

プロジェクト総合評価

S	A	B	C	合計
2	4	3	1	10

A以上の総合評価
6/10

施策総合評価

S	A	B	C	合計
6	7	9	3	25

A以上の総合評価
13/25

プロジェクト1 子どもを産み育てる環境の整備	
総合評価	達成数
B	4/12

施策	総合評価	達成数
1-1	C	0/4
1-2	S	3/4
1-3	B	1/4

プロジェクト2 教育再生による確かな成長の支援	
総合評価	達成数
S	7/11

施策	総合評価	達成数
2-1	A	3/6
2-2	S	4/5

プロジェクト3 産業振興と就業環境の創出	
総合評価	達成数
A	9/20

施策	総合評価	達成数
3-1	A	3/6
3-2	B	1/4
3-3	S	4/5
3-4	B	1/5

プロジェクト4 地域資源を生かした交流の推進	
総合評価	達成数
S	6/10

施策	総合評価	達成数
4-1	A	3/5
4-2	S	3/5

プロジェクト5 地域循環システムの形成	
総合評価	達成数
A	5/11

施策	総合評価	達成数
5-1	B	1/4
5-2	A	4/7

プロジェクト6 危機管理の強化と社会基盤の最適活用	
総合評価	達成数
B	8/24

施策	総合評価	達成数
6-1	B	1/9
6-2	A	3/6
6-3	A	4/9

プロジェクト7 生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築	
総合評価	達成数
C	0/7

施策	総合評価	達成数
7-1	C	0/3
7-2	B	0/4

プロジェクト8 健康寿命の延伸と住み慣れた地域での生活継続	
総合評価	達成数
B	2/10

施策	総合評価	達成数
8-1	B	1/5
8-2	B	1/5

プロジェクト9 地域ブランド・プロモーション	
総合評価	達成数
A	6/11

施策	総合評価	達成数
9-1	A	2/6
9-2	S	4/5

プロジェクト10 地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり	
総合評価	達成数
A	8/19

施策	総合評価	達成数
10-1	B	1/4
10-2	C	1/5
10-3	S	6/10